

意味の変化

言葉の意味や形は、時代とともに変化していく。変わり行くことが言葉の本質だが、本来の意味を正しいと捉えると、最近よく使われる意味で使用した場合は、「誤用」ということになる。ここでは、意味の変化が生じつつある典型的な語を、いくつか紹介する。

【雨模様】

用例 外は雨模様だ。

本来の意味 雨が降りそうな空の様子。

最近の意味 (小) 雨が降っている様子。

【割愛】

用例 時間の都合で以下は割愛します。

本来の意味 惜しいと思うものを手放す。

最近の意味 不必要なものを切り捨てる。

【号泣】

用例 悲報を聞いて号泣する。

本来の意味 大声をあげて泣くこと。

最近の意味 (声をあげずに) 激しく泣くこと。

【失笑】

用例 彼の発言に失笑した。

本来の意味 思わず笑ってしまうこと。

最近の意味 笑いも出ないくらいあきれること。

【ぞつとしない】

用例 この映画はぞつとしないものだったね。

本来の意味 おもしろくない。感心しない。

最近の意味 恐ろしくない。

【なし崩し】

用例 借金をなし崩しにする。

本来の意味 少しづつ片づけていくこと。

最近の意味 都合よく、うやむやにすること。

【ぶぜん（撫然）】

用例 ぶぜんたる面持ち。

本来の意味 「不満だが、自分としてはどうしようもない」という気持ちで黙つている様子。

最近の意味 ぶすつとして不機嫌な様子。

【やおら】

用例 やおら起き上がりつて背伸びをした。

本来の意味 ある動作を急に始めると始める様子。

最近の意味 ある動作を急に始める様子。

【役不足】

用例 彼には役不足の仕事だ。

本来の意味 力量に対しても役目が重すぎること。

最近の意味 力量に対して役目が重すぎること。

最近の意味 生き方が型破りであること。